

## 「ボリビア国研修生を迎えて」

筑波大学

左 藤 敦 子

赤や黄色に木々が色づく頃、「南米ボリビア国の障害児教育における教師教育モデルの構築と展開」の研究課題の一環として、ボリビア国からの研修生を迎えました。今年度は、視覚障害教育と聴覚障害教育を中心に据えた研修が展開され、附属視覚特別支援学校と附属聴覚特別支援学校の先生方には多大なるご協力をいただきました。13時間もの時差をものともせず、真



剣な眼差しの研修生の方々をみていると、日本とは異なる文化や習慣、価値観をもつ国々とどのように手を携えていくことができるのかを考えさせられ、国際教育協力イニシアティブ事業におけるマレーシア訪問の際に感じた思いがよみがえった1ヶ月でした。また、このような国際協力を通じて得られたものを、日本の特別支援教育にどのように活かしていけるのかという視点も重要ではないかと感じています。今年度に引き続き、来年度もボリビア国における研修生を受け入れていく予定ですので、考える時間はもう少しありそうです。

そして…新校舎への移転の慌ただしさから4ヶ月あまりが経ちました。文京校舎へは足を運ばれたでしょうか。小日向地区のノスタルジックな佇まいを懐かしく思い出しつつ、やっと新校舎の環境にも慣れてきたところです。昨年度の通信でも同様のことを書いていたように記憶しておりますが、新しい環境の中で、特別支援教育研究センター設立の意義と期待の重みを忘れずに、少しずつでも着実に前に進んでゆけるように努めてまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

## ■南米3カ国研修

8月21日から10月1日までの間、南米3か国から9名の研修生が来日し、本学での講義の他、附属3校での研修も実施されました。

### 附属大塚特別支援学校

野村勝彦

8月21日に来日した南米3カ国（エクアドル、ボリビア、パラグアイ）の研修生9名の皆さんは、附属大塚特別支援学校で7日間の研修を行いました。幼稚部、小学部、中学部、高等部の授業を見学し、学校の概要、個別の指導計画の作成と授業づくり、教材開発、地域支援などの説明を受けました。そして、ボリビアのエディットさんとエクアドルのイレーネさんの指導で小学部音楽の研究授業を行いました。エクアドルの音楽を用いた授業で子どもたちは、楽器を演奏したり曲にあわせて踊ったりして楽しい時間を過ごしました。「日本の教育の特徴として、チームワークで授業をすることの素晴らしさがある」ことが数名の研修生から感想として出されました。

### 附属桐が丘特別支援学校

佐藤孝二

1日目、本校キャンパスの小学部第1学年の自立活動と算数の授業を見学し、「個々に応じた教育」という本校の教育方針に基づき、個別の指導計画、自立活動の指導、算数の指導法についての講義を受け、個々の児童生徒に正面から向き合う桐が丘の教員の姿勢に感心した様子でした。2日目は、施設併設学級キャンパスにおいて、小学部重度重複クラスの健康指導「足湯」、「はじめの会」「ふれあいたいそう」などを授業見学し、「重度重複障害児の教育課題・指導方法・内容」の講義、演習を受けました。「まだ、自国では重度重複障害児は教育対象児とは言えませんが、日本のようにすべての子どもに教育を保障できるように努力したい！」と語っておりました。



### 附属久里浜特別支援学校

沼澤聡子

久里浜では9月21日、22日の2日間、研修が行われました。幼稚部・小学部の見学では運動会の練習の様子をみて「♪マルマルモリモリ～」と口ずさみ、踊り出す研修生も。さすがラテンの国の方達です。講義では、学校概要、個別の指導計画および個別支援計画作成と授業作りについての説明の他、授業内容について幼稚部の先生方とのディスカッションが行われ、両国の療育に関する現状等にまで話が広がり、研修生の皆さんも、「現場の先生の生の声を聞くことができ、大変有意義な研修でした。」と話していました。

## ■現職教員研修生の研修日記

千葉県立袖ヶ浦特別支援学校 大原 七生

**視野を広げる** センターでは、様々な講義や演習、また、すべての障害附属学校で学ぶ機会を用意してくださっています。講師の先生と大変近い距離で学ぶことができ、質問等もしやすい雰囲気の中、ぜひいたく時間を過ごさせていただいていると感謝しています。

**現場の先生に学ぶ** 実習では、桐が丘特別支援学校の施設併設学級でお世話になりました。先生方が、障害の重い子ども達であってもその子にとっての様々な「自分で」を大切にしておられることがよくわかりました。静的弛緩誘導法についても一から手を取って教えてくださり、子ども達の見取りや支援の方法について学ぶ貴重な機会をいただきました。ぜひまた教室の子ども達に会いたいと思っています。

**〇〇年ぶりのキャンパスライフ** 大学での講義やゼミでは、現職の今、改めて実感を持ってわかること、「そうだったんだ！」とハッとすること等々あり、学生の時と違って時間があっという間です。今、何歳になっても勉強は楽しい！と思っています。（発表会は苦しいですが・・・）残りの日々を大切に、そしてしっかり研修結果をまとめていけるように頑張りたいと思います。



栃木県立栃木特別支援学校 阿部 史枝

平成23年度の現職教員研修生としてスタートして、8か月が過ぎようとしています。3月に起きた震災の影響で4月からの開講が難しい大学もあり、こうして予定通りに開講し、同じ研修生達と充実した日々を過ごせることに感謝しています。

4月から小日向校舎にて下町の情緒を、9月からは茗荷谷の新校舎で都会の雰囲気を味わいながら、筑波大学特別支援教育研究センターの先生方の講義や演習を受けることができ大変光栄に思っています。6月からは、週に二日、桐が丘特別支援学校にて授業の参観及び実習をさせていただいています。主に小学部5年生の算数、体育、家庭科、自立活動の授業に参加し、とても楽しく、有意義な時間を過ごしています。

車椅子から座位保持椅子への乗り換えのときなど「ここは、（自分では）こうできるから、先生はここをお願いします。」と、それぞれ自分の身体の状態を自分の言葉で説明して、私に伝えてくれます。

5・6年生の運動会のリレーの練習では、走っている友達に「自分のペースで」と、みんなが応援していることやリレーのバトンパスをどうやって渡したらいいのか、渡す人、渡される人が自主的に集まって相談している姿がとても印象的でした。



## ■筑波大学重点公開講座報告

SNERC

11月27日、筑波大学東京キャンパス文京校舎にて、特別支援教育研究センター主催筑波大学重点公開講座を開催いたしました。「大震災に学ぶ障がいの理解と支援」と題した本講座では、宮城県立視覚支援学校教諭菊地理一郎氏から3.11当日の学校や避難場所での様子を、関西国際大学教授中尾繁樹氏には、阪神淡路大震災における地域の避難所としての学校の在り方について時系列でお話していただきました。被災時における障害者支援の重要性やその手ごかりについてを知ることができ、自身も視覚障害者である菊地氏の「自分の身は自分で守るしかないことを肝に命じよ。」という一言が、大変印象的でした。後半は附属視覚特別支援学校の澤田校長と人間系長崎教授を指定討論者に迎えての討論会が行われ、受講者の方から「今、私達ができる危機管理について」等の質問が寄せられ、大変有意義な会となりました。



菊地理一郎氏



中尾 繁樹氏



## 研究交流セミナー2012 開発国の特別支援教育支援

これまで筑波大学人間系(障害科学域)は国際教育協力を推進する一環で、各国の特別支援教育事情を調査研究し、各国から研修生を受け入れてきた。その中で筑波大学人間系(障害科学域)とJICA筑波国際センターが共同事業としておこなった「南米地域 特別支援教育研修」は、特別支援教育研究センターおよび附属特別支援学校の協力とともに、3年間の研修期間を終えようとしている。また、この事業から発展し、特別支援教育研究センターによるボリビア国への教育研修も平成23年度より開始したところである。筑波大学人間系(障害科学域)と附属特別支援学校が培ってきた特別支援教育のノウハウは、開発国の特別支援教育の構築や改善にとってきわめて有用であるしそうしたノウハウの提供は責務でもある。本セミナーでは、開発国への特別支援教育支援の実践の背景となる研究面の展望を探るものとして企画した。

基調講演 「アフガニスタン等への教育支援から」

筑波大学教育開発国際協力センター (CRICED)

中田 英雄

報告 (1) 南米地域を対象とした研修の概要とその課題

JICA筑波国際センター 研修業務・市民参加協力課 河澄 恭輔・田中 千鶴

(2) 今後の国際協力における教育支援に関する展望 JICA国際協力専門員 村田 敏雄

(3) 南米3カ国からの研修生への対応から 筑波大学特別支援教育研究センター 野村 勝彦

指定討論 筑波大学障害科学系長

四日市 章

趣旨説明 筑波大学特別支援教育研究センター

安藤 隆男

開催日 2012年1月5日(木) 13:30~16:30

開催場所 筑波大学東京キャンパス文京校舎 1階大講義室

問い合わせ 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学特別支援教育研究センター  
TEL: 03-3942-6923 FAX: 03-3942-6938  
E-mail: snerc@human.tsukuba.ac.jp